

「口之島小中学校の狂言・盆踊り」 伝承活動の取組

1 学校名

十島村立口之島小中学校

2 学年・人数

小学1年生から6年生

中学1年生から3年生 (計9人)

3 場所・日時

(1) 練習の場所・日時

口之島小中学校体育館 (8月下旬 午前)

(2) 発表の場所・日時

口之島トンチ (9月1日(土)午前)

口之島テラ (9月1日(土)午後)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

口之島狂言・盆踊り (くちのしまきょうげん・ぼんおどり)

(2) 由来

旧暦 (7月15日) のお盆に先祖供養のために演じる踊りと狂言。大和文化の流れで歴史上貴重な伝承文化である。

トンチ(殿地)とテラ(お寺)で子どもの小踊り、大人の団体踊りである天下太平、ドンドン節、サンサ節を踊り、狂言は1番(木崎原合戦)、2番(佐野源左右衛門)、3番悪人(源頼光の家臣、渡辺常の兄弟喧嘩)、肥後の国を狂言で演じ、日本の能文化を継承している。詳しい文献はなく、口上のみで継承されてきた。

学校では、小学生は小踊り、中学生は旧暦のお盆の1週間前から練習に参加し、大人踊りに参加という口之島の風習に合わせて、夏休みから練習に入り、盆踊りの継承活動に取り組むようにしている。

(3) 構成等

旧暦7月15日は、午前中にトンチで盆踊りを行い、大人の団体踊りでは男だけで踊る。小踊りは小学生以下の子どもたちだけで踊る。午後からはテラで同じメンバーで踊る。

踊りの順番としては、まず、子どもたちだけで小踊りを高齢者の方の歌に合わせて、ウチワを持って普通の服装で踊り、その後、「先踊り」として、服装は浴衣に手拭い、ウチワを持った大人の団体踊りが踊る。先頭の人が歌うとあとの踊り子たちは「サーサー」とはやす。天下太平やドンドン節、サンサ節を歌う。その後、狂言が披露されるのである。午後には、テラのニワで午前の踊りと狂言を繰り返し行う。

5 保存会や地域との連携の具体

今日、少子・高齢化などにより継承が危惧されている中、島の自治会を中心に保存会を立ち上げ、島全体で取り組んでいる。ここ1、2年は十島村の協力をいただき、盆踊り見学ツ

ア一も企画され、広くアピールすることでしっかりと継承を図れている。

学校での教育活動としては、旧暦の7月15日に行われるため、日程が固定されていない。そのため学校の教育活動として伝承活動の位置付けが難しい。また、山海留学生や教職員の子どもたちの参加に関しても帰省等の日程上うまく合わない場合もある。平成24年度は旧暦の7月15日が新暦の9月1日にあたり、夏季休業中の8月28日から1週間ほど、中学生から小踊りに参加する小学生の子どもたちへ踊り方の練習を行った。大人踊りに参加する中学生は、夕方から夜にかけて、島のコミュニティセンターに集まり、大人に交じって、団体踊りの練習をおこなっている。島の伝統文化でもある盆踊りは奉納に関わる行事であるので、学校行事等で披露することが難しい。故に学校が中心になり、積極的に伝承活動を行うことはできないが、島の将来を支える子どもたちに島の伝統を伝え、口之島の一員としての誇りを持たせ、学校全体で口之島の盆踊りを支えて、由緒あるこの伝統行事の伝承をしていくという体制は整えられている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら盆踊りを継承していくために、学校と自治会での連携が図られている。特に教職員は毎年、参加しており、団体踊りのみならず、狂言についても出演させてもらっている。ただし、中学生の子どもたちについては、団体踊りへの参加のみである。そのことは子どもたちが小学生から中学生へと成長の過程で、少しずつ大人の中に入っていき、団体踊りの練習参加や狂言の練習見学などを通して、地域の中における大人の一員としての自覚を促す第1歩になっていくのではないかと考えることができる。それらの活動を通して得られた一体感や達成感を味わうことで現在も中学校を卒業後、島を旅立った卒業生たちの多くが盆踊りのために島に帰ってきて参加している。今後も継続した地域との連携を通して、盆踊りを伝承していくことが「地域の郷土芸能は地域で守り育てていく」という自覚を促すことにつながっていくと考えられる。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



トンチでの小踊り風景



トンチでの団体踊り風景



テラでの団体踊りでの中学生の様子



狂言での教職員の演舞

8 参加児童生徒・教職員等の感想・意見

中学生になって、小学生の頃からずっと見てきた大人踊りができるという期待と不安でいっぱいでした。練習ではなかなか飛ぶタイミングがつかめず、苦労しましたが本番ではみんなの応援もあり、無事に踊りきることができました。これからもこの伝統的な踊りを地域の方々と盛り上げていきたいです。」(生徒から)

今年の4月に転勤してきて、狂言の1番を踊ることになった。練習は厳しく、何度もストップがかかり、地域の方々から厳しい言葉も浴びせられる。ただ、そんな厳しい練習の1つ1つが終わるたびに汗だくになる自分がいた。この練習に対する厳しさこそが、地域の方々の盆踊りに対する思いであり、ふるさと口之島への思いであろう。ふるさとの伝統である盆踊りを通して、生まれ育っている地域への誇りや愛着を子どもに育みたいという地域の願いが根底にあるように思われる。(教職員から)